



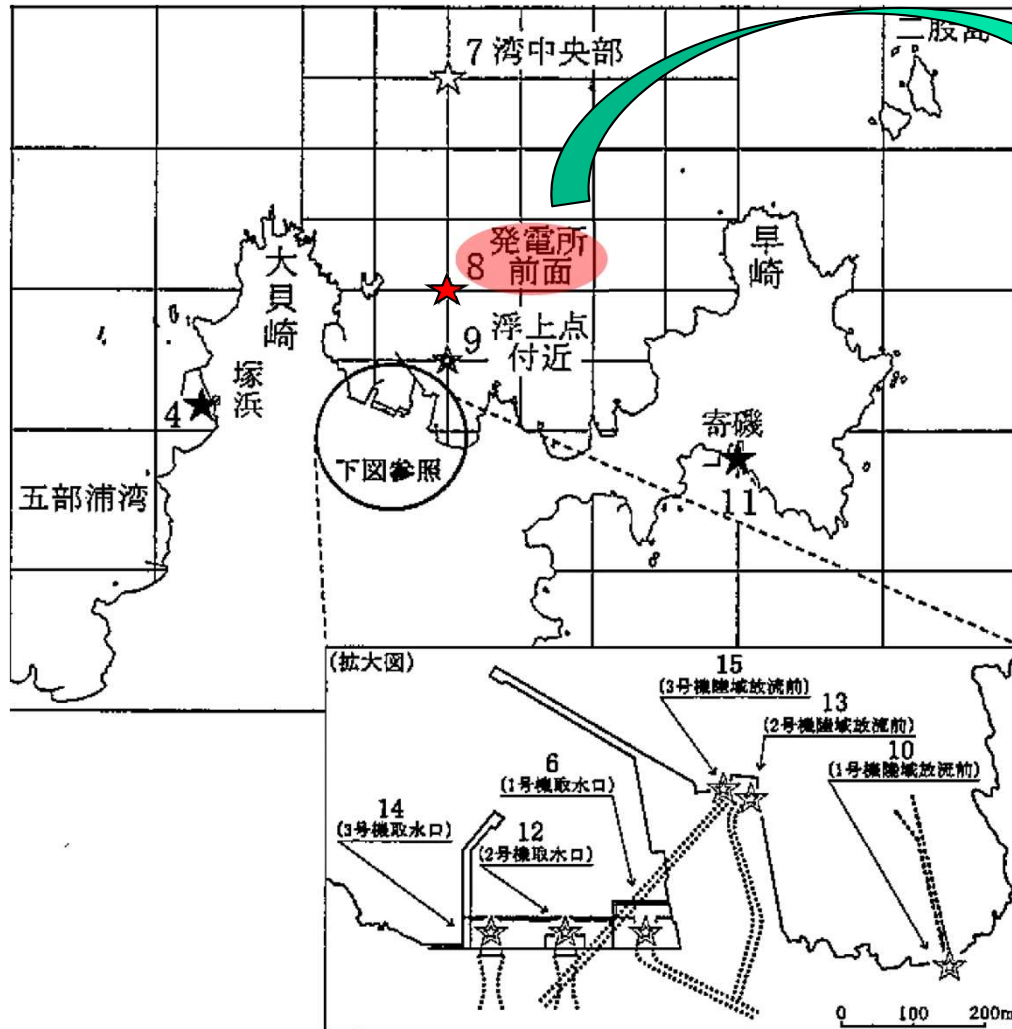
台風19号による海水温度モニタリング装置 (発電所前面海域)水温データの欠測について

2019年11月22日

東北電力株式会社

台風19号による海水温度モニタリング装置（発電所前面海域） 水温データの欠測について（1/3）

➤ 海水温度モニタリング装置の8（以下、「当該装置」という。）は、発電所前面海域に設置している。



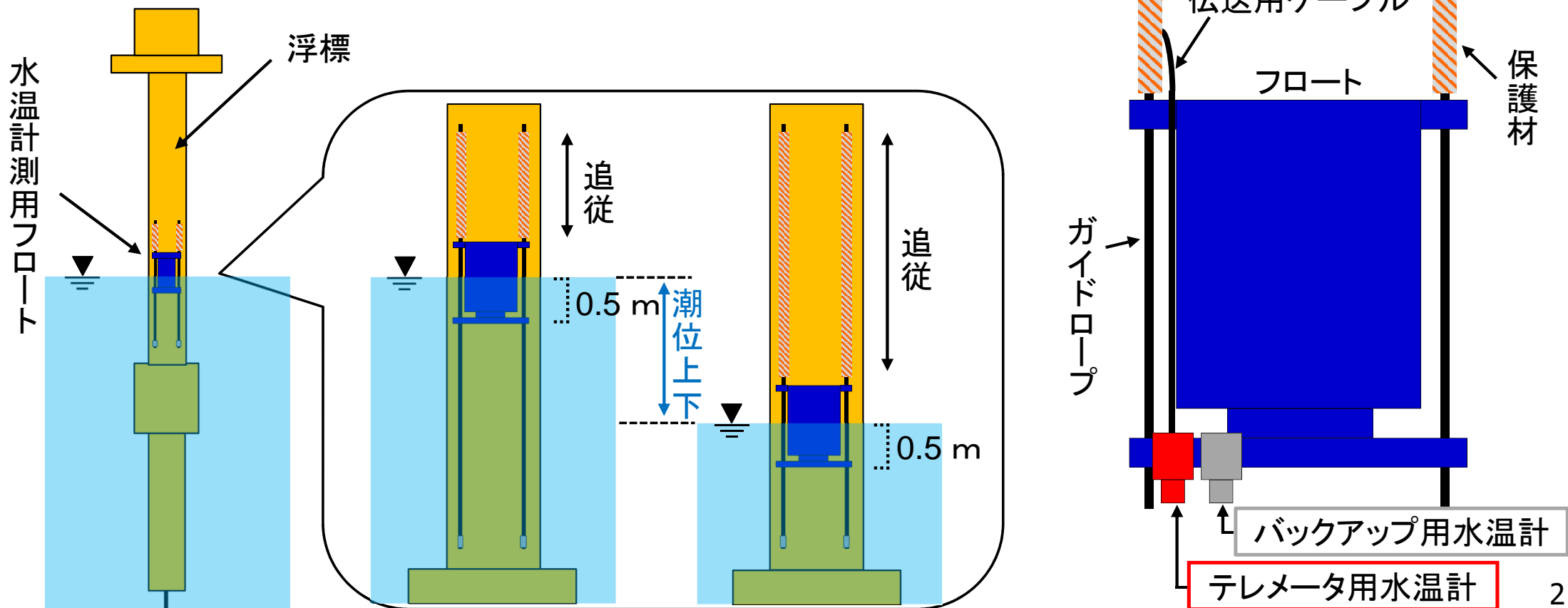
当該装置の写真

水温調査(モニタリング)位置

台風19号による海水温度モニタリング装置(発電所前面海域) 水温データの欠測について(2/3)

【設備概要】

- 海水温度モニタリング装置は、温排水調査の測定データの報告に用いるため計測、データ伝送している。
- 当該装置は、発電所前面海域に浮漂を設置し、その浮漂の本体に水温計測用フロート(以下「フロート」という)を取付け、水面下0.5mの海水温度を測定する装置である。
- フロートは2本のガイドロープに沿って、潮位に追従し上下動し水面下0.5mを維持し、海水温度を測定している。
- フロートにはテレメータ用水温計(常時伝送用)とバックアップ用水温計(メモリ式)を設置している。



台風19号による海水温度モニタリング装置(発電所前面海域) 水温データの欠測について(3/3)

【事象概要】

- 台風19号通過後の2019年10月17日に海水温度モニタリング装置海上局の点検を行ったところ、当該装置のフロートが波浪の影響によるフロート下部の損傷および伝送ケーブルの絡みにより水面上に引っかかっており、潮位に追従できない状態で計測していることを確認したことから、テレメータ用水温計、絡まっていた伝送ケーブルおよびバックアップ用水温計を回収した。
- 当該期間の水温データに関しては、現在詳細評価中であり、最長でも10月12日～10月17日の6日間程度の欠測が見込まれる。
- 10月17日14時には暫定的にバックアップ用水温計(メモリ式)のみを再設置し、水温データの取得が可能な状態としたが、フロートの損傷に伴い、従来の動きに比べ上下の動作が緩慢な状態であり、海象状況によっては更にデータの欠測が生じる可能性がある。
- フロートは交換(受注生産)が必要であり、製作までに約50日程度要する見込み。

